



# 大谷女子大学図書館

1973年10月開館



## 大谷女子大学図書館の概要

本学の図書館は、`使いやすさ、`親しみやすさ、を重点として建設されました。

鉄筋コンクリート造2階建の館は、校舎本館2階と渡り廊下で結ばれています。これによって、図書館は本館の1部でもあり、利用の便利さは、独立館では得難いものがあります。また全館完全開架方式をとっているため、利用者は直接に必要な資料に接する事ができ、この点においても使いやすい図書館であると言えます。

閲覧室の座席は156席、他に雑誌室、自習室、視聴覚室、キャレルを加えると244席となります。これは、在籍数の約2割になり、大学図書館の標準を大きく上回るものです。利用者は、ゆったりとした気持で、自らの主体的な学問探求に取り組めるものと確信します。また閲覧机は、1人用、4人用、中央パネル付、本立付と4種類を備え、それぞれの好みの机で勉学する事ができます。その他の家具等においても、木製品を主とし、使やすく、温かみのあるものにしてあります。

書架は積層式合計4層で10万冊収容する事ができます。閲覧室に接した2階書庫には文学書を、1階書庫には、文学以外の図書、雑誌(旧号合本済)、個人文学全集を配架してあります。

総ガラス張りの閲覧室、調和のとれたカラフルな内装、美しい庭園は、きっと利用者に親しみを覚えていただけていると思います。床も天井もブルー系統、それは青い空のつづきであり、金剛・葛城の山並みに伸びてゆくものです。

さらに、明るいことと、スペースの広いことは、本館の大きな特長です。トップライトを始めとする太陽光線の採光の工夫はもとより、電灯設備においても明るすぎるくらい明るい図書館になっています。また、書架間の幅の広さ、閲覧機の広さ等は、大学図書館の標準を大きく上回るものであり、ゆったりとした落ち着きを感じさせる図書館になっています。この大谷女子大学図書館は、うす暗く固苦しいという、従来の図書館のイメージを変えてくれることと思います。

このような良い設備を十分に生かし、本学の図書館は、大学図書館としての機能の他に、南河内地方の郷土資料の収集保存、激しく変動する現代のインフォメーションセンターとしての機能も兼ね備え、成長しようとしています。

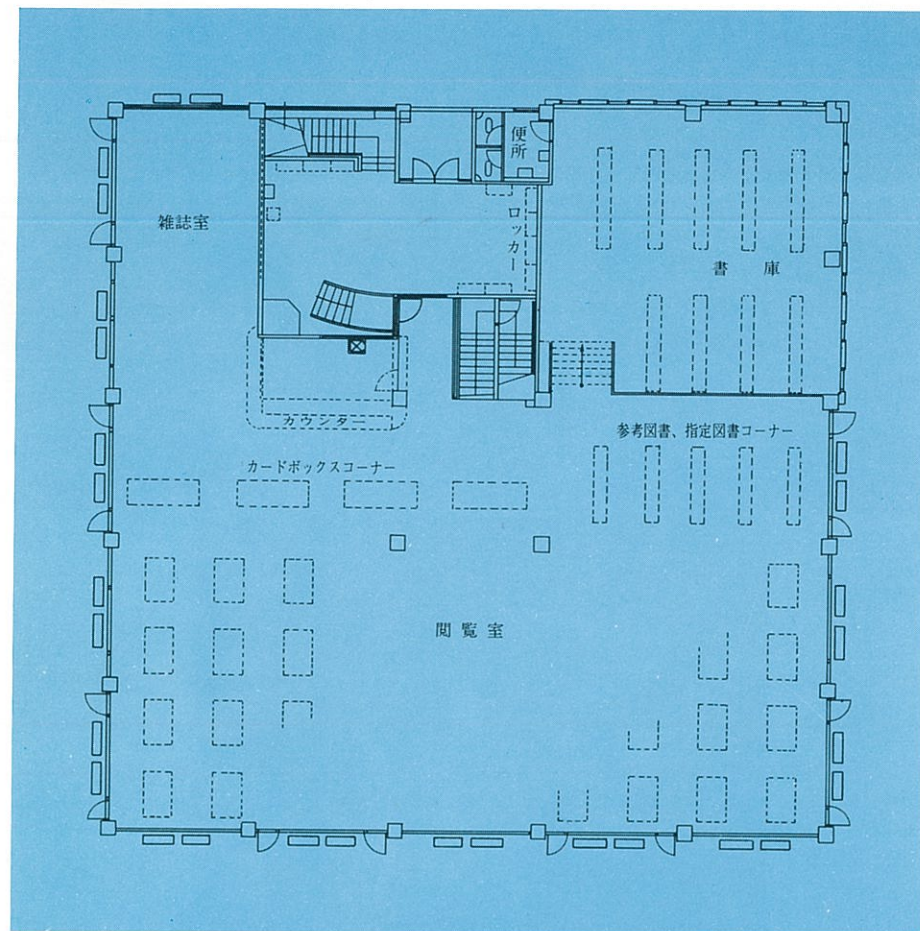
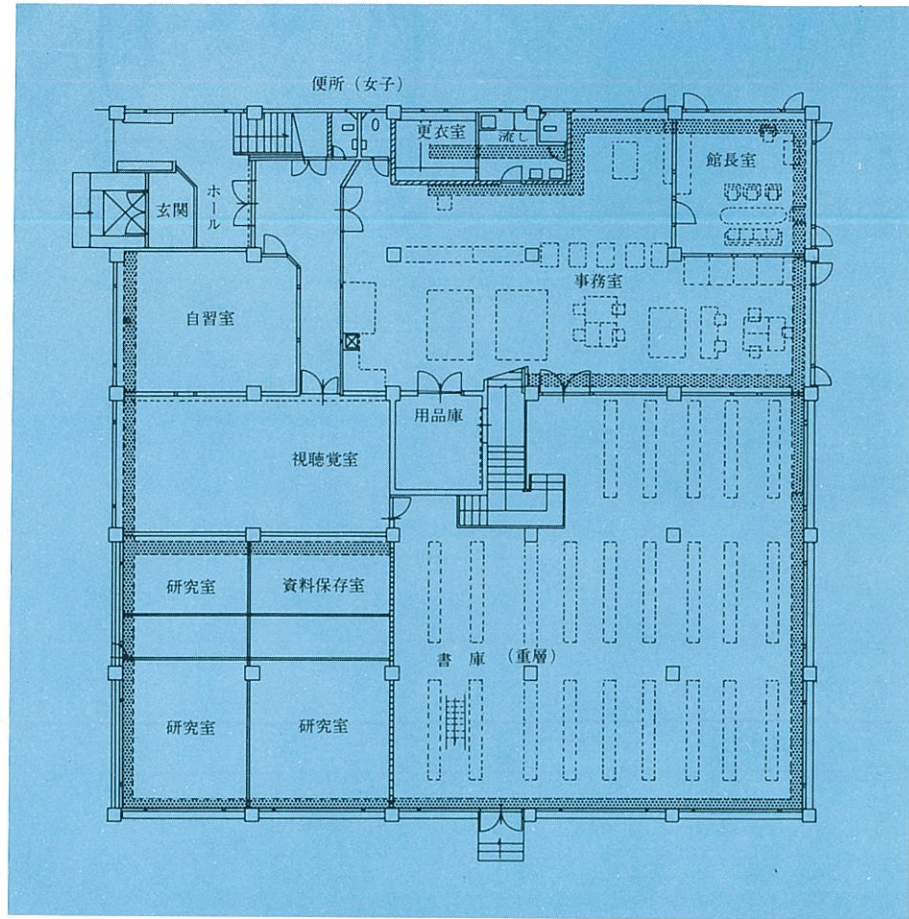


正面玄関

カウンター

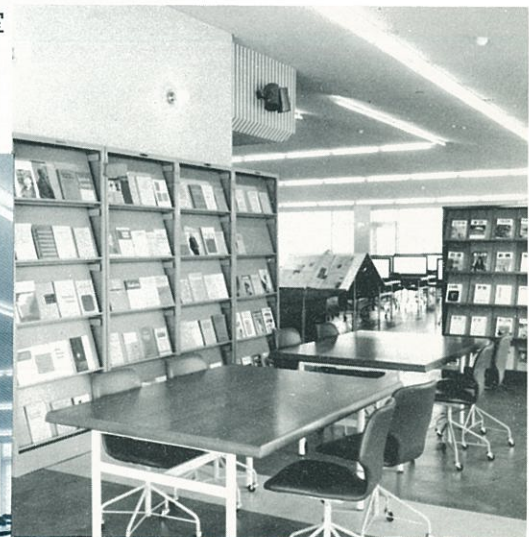






自習室

雑誌室



閲覧室





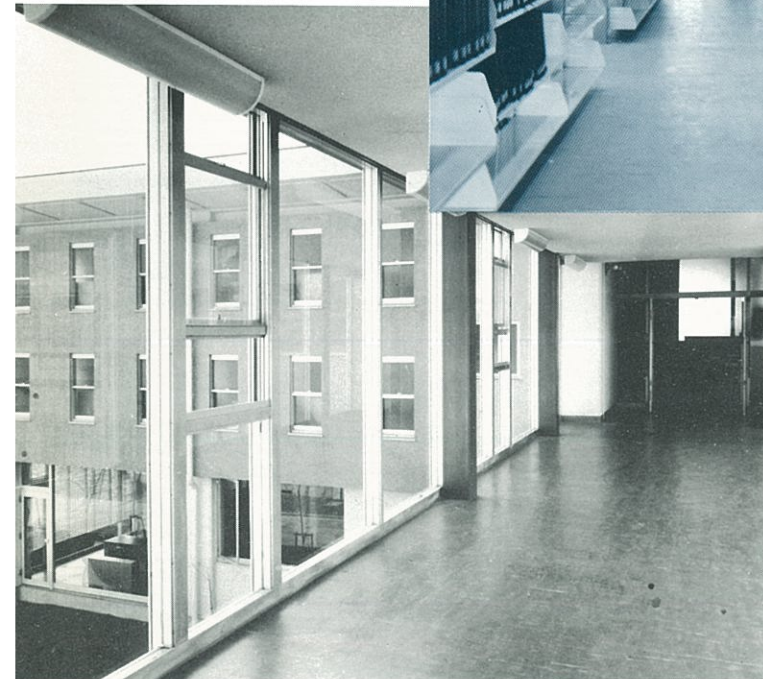


図書館裏庭



書庫

渡り廊下



閲覧室への階段

## 工事概要

工 期	昭和48年1月～昭和48年10月
設 計 管 理	辻建築設計事務所
施 工	株式会社浅川組
構 造 規 模	鉄筋コンクリート造2階建 (書庫部分計4層)
外 装	外壁柱型：吹付タイル 屋 根：シングル防水 (1部アスファルト防水)
内 装	床：モルタル Pタイル 巾 木：ソフト門木 壁：モルタル 吹付けタイル
天 井	ミネラートン、P・B下地サテン吹付け
各室床面積	1階 自習室 33.5M <sup>2</sup> 視聴覚室 50.0 館長室 25.0 事務室 124 研究室 84.5 書 庫 400.0 (2層の合計) 倉 庫 23.1 玄関・ホール 便所・その他 97.0 2階 閱 覧 室 377.0 雑 誌 室 50.0 書 庫 200.0 (2層の合計) ホール・階段 そ の 他 98.0 渡り廊下 56.5 機 械 室 22.8 延床面積 1641.4M <sup>2</sup>

## 備品概要

製 作	丸善株式会社
閱 覧 机	4人用 D W H 1100×1600×700 36台 (内24台パネル付) 1人用 600×800×700 6台 6人用 1200×2400×700 1台 天板 つや消しデコラ 脚 丸パイプメラミン焼付
閱 覧 椅 子	成形合成ビニール張り 回転キャスター付 156台
カ ウ ン タ ー	二段式 チーク練付 コの字型 天板部分 計9m 600 高さ950
雑 誌 架	鳩単式 20誌用 11台
カ ー ド ケ ー ス	木製積み重ね式 30引き出し 18組
参考図書用書架	木製三連複式 5段 下二段傾斜 5台
文庫本用書架	木製二連複式 3段 4台
雑誌室、視聴覚室、自習室、事務室は従来の備品を転用	

## 積層書架設備

製 作	株式会社 熊平製作所
二重式積層書架MSM型 指定色によるメラミン樹脂塗料焼付塗装仕上 最大収容冊数10万冊	

## その他の設備

ブックリフト	10kg用
除湿設備	6カ所
換気設備	換気扇
暖房設備	温水式